

急性腹症患者における腹部 CT 画像所見（糞便性大腸炎、閉塞性大腸炎） に関する疫学研究のお知らせ

1. 研究の概要（背景、目的及び意義）

近年の高齢化に伴い、難治性便秘が増加しています。難治性便秘を放置しておくこと、大腸に炎症を来し、糞便性大腸炎、閉塞性大腸炎という、大腸の炎症を引き起こす可能性があります。一方、その発生メカニズムや原疾患の頻度、診断・分類方法、適切な治療法、予後に関しては、明確なコンセンサスやエビデンス存在しません。今回の研究の目的は、カルテデータベース、および各部門システム（画像診断システム等）を用いて当院が診療に参与した急性腹症患者で、腹部 CT 画像所見上、糞便性大腸炎、閉塞性大腸炎、を認めた患者の情報を集め、疫学的に研究し、予後関連因子や適切な治療法に関する検討し、今後の診断、治療に役立てたいと思っています。

2. 研究の方法

1) 研究対象者

2001年4月1日より2017年3月16日の間に、急性腹症患者で腹部 CT 撮影を行い、画像所見において糞便性大腸炎、閉塞性大腸炎を認めた患者さん。（外来、入院共に含む。）

2) 研究期間

2017年4月（当院倫理審査委員会承認後）～平成2020年3月31日

3) 研究方法

診療録（カルテ）データ、および各部門システム（画像診断システム等）を用いて、データを取得し、包括的に解析を行います。各症例を詳細に検討、報告することで、診断精度、リスク因子の同定、治療方法の選択、予後関連因子等、幅広い検討を行います。

4) 使用する情報

研究に使用する情報として、診療録（カルテ）から抽出した情報を使用させていただきますが、あなたを特定する個人情報とは連結不可能匿名化し、個人情報などが漏洩しないようにプライバシーの保護には細心の注意を払います。

5) 研究計画書および個人情報の開示

他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、この研究の計画および研究の方法に関する資料の閲覧や提供を行います。また、当院の倫理審査委員会の審査一覧については、当院ホームページにて掲載しております。調査結果は個人を特定できない形で関連の学会および論文にて発表する予定です。この研究にご質問等がありましたら下記までお問い合わせください。ご自身やご家族の情報が研究に使用されることについてご了承頂けない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申し出ください。この場合も診療など病院サービスにおいて患者の皆様には不利益が生じることはありません。